

宮崎県は畜産部門の飼養頭羽数が全国トップクラスに位置し、県内では米や野菜・果樹など多様な農産物が生産されています。

今回は、「大地の恵みで笑顔を創る」という理念の下、宮崎県西都市で野菜の生産及び冷凍野菜の製造・販売を行っている株式会社ジェイエイフーズみやざきを訪問しました。



## ジェイエイフーズみやざきについて



ジェイエイフーズみやざきは、野菜の生産及び冷凍野菜の製造販売を行う JA 宮崎経済連の関連会社で、平成 22 年に設立し、平成 23 年に「露地産地づくり」と「冷凍野菜事業」をビジネスモデルの柱として事業を開始しました。

野菜の生産・加工事業を通して、消費者へ安全・安心な食料、地域農業・農村の健全な発展、農業所得の向上の支援や貢献を事業目的として、大地の恵みに感謝し、確かな技術と心で食を創造し、人と自然に愛される企業を目指しています。

## 製造部門について



冷凍野菜の製造は、西都市にある加工工場で行っています。原料投入から選別や洗浄、脱水といった工程を経て、冷凍野菜を製造します。凍結された野菜は金属探知検査・X線検査の後、最終選別を終えて出荷されます。メイン品目であるほうれんそうは年間 1,933 t が投入され、全品目で 810 万パック（32,000 パック／日）が出荷されました（4 年度実績）。

加工工場で使用する原料は契約農家が栽培した野菜と自社農場で生産したものがあります。どちらも工場周辺 20km 圏内で生産しているため、鮮度の高い野菜の冷凍加工を実現しています。

## 生産部門について



原料生産にあたっては、耕種部門でイン

テグレーションモデルを導入しています。インテグレーションモデルとは複数の工程を一貫して実施することで、ジェイエイフーズみやざきでは、JA 出資法人と連携し、播種、防除、中耕、収穫などの機械を使った作業を委託できる仕組みを構築しています。この仕組みにより作業の分業化が進み、生産者は自分で機械を購入することなく栽培を行うことができます。

使用する機械は実態に応じてより使いやすくなるように、メーカーとも連携して改良を重ねている他、分散していた畑地を集約することで、より効率的に機械を使えるような工夫をしています。

このような取組により、熟練した農業者以外でもできる作業が増え、実際に、昨年の自社農場での種まきは、これまで農業に携わったことのない社員が行いました。

## 食の安全に関する取組について



食の安全性向上のための取組として、生産部門と加工販売部門のどちらにおいても、食品安全に係る国際的な認証を取得しており、出荷される商品は国際規格の基準をクリアしたものとなっています。

さらに、減減栽培（化学農薬や化学肥料を減らす栽培方法）、機能性表示食品の届出、離乳食としても使用できるほうれんそうポーションキューブの製造販売など、安心安全な食品を届ける取組を積極的に行い、他社との差別化を図っています。



今回、私たちは株式会社ジェイエイフーズみやざきの業務部原料課の伊豆元課長と米良課長補佐にお話をお伺いすることができました。



左) 伊豆元原料課長、右) 米良原料課長補佐

## Q. まず初めに、事業内容について教えてください。



メインとなるのは冷凍野菜の製造販売です。また、原料の一部を自社農場で生産しており、製造販売と農場運営の2つの柱から成り立っています。

令和4年度まではカット野菜事業も行っていました。消費期限管理や原料の価格高騰などコスト面の課題があり、現在は事業を終了しています。

## Q. 会社設立にはどんな背景があったのでしょうか？



平成17年以降、葉たばこの廃作推進があり、葉たばこを育てていた土地を活用して、なにか露地野菜を作れないかという需要がありました。また、平成22年に発生した口蹄疫の復興対策とも重なり、ほうれんそうの産地化に至りました。他にも、中国産野菜の残留農薬問題により国産野菜への関心が高まっていたことや、女性の社会進出や共働き世帯の増加等の時代背景から伸長している冷凍食品分野に着目し、露地野菜の振興と国産の冷凍野菜の供給を目的として、弊社が設立されました。

## Q. 工場での主な加工品目について教えてください。



工場は年間約260日稼働していて、12～4月は主にほうれんそうを、5～11月でさといもやねぎを製造するスケジュール

ルになっています。令和5年度の投入計画では、ほうれんそうが全体の投入量の約7割で、ほうれんそうに関する業務が年間の中で大きなウエイトを占めています。あまりイメージとしては強くないかもしれませんが、宮崎県で作付されているほうれんそうの8割以上が加工・業務用であり、全国の加工・業務用ほうれんそうの7割程度を宮崎県で賄っている状況です。私もこの会社に勤めるまでは、こんなに宮崎のほうれんそうのシェアがあることを知りませんでした。



ほうれんそうのサイズ比較（左：加工用、右：青果用）

## Q. 事業内容の特色を教えてください。



工場周辺20km圏内で栽培することで、収穫後30分以内に工場まで持ち込み、ただちに冷凍加工をして鮮度維持を行っている点が、弊社の特徴です。工場を無駄



なく稼働させるため、作付の段階で工場の稼働計画を作成し、工場に供給するために種まきから収穫までの予定を組み立てることで、原料切れが起こらないよう工夫しています。

契約農家が年々減少していく状況で、どのようにこれまでどおりの収穫量を確保していくかが課題ではありますが、自社栽培を増やすことや、近隣の生産者に空き地の活用を働きかけるなど、推進の取り組みをしているところです。

### Q. 栽培部門での機械の活用はどのようにされていますか？

ほうれんそうだと、圃場の準備から種まき、除草剤散布などは、機械を活用して行うことができます。栽培管理の段階になると、ドローンを用いて空撮をすることで、育成状況のばらつきを見て、収穫が可能な割合を把握しています。

また、弊社にはフィールドコーディネーターと呼ばれる職員が2名おり、管理システムが入った端末を持って、日常的に圃場を巡回しています。システムには、生育状況等の履歴が記録されているため、そういった情報を見ながら、生産者に対して収穫時期などをアドバイスすることができます。



ドローンでの育成状況の空撮



フィールドコーディネーターによる圃場巡回

### Q. 自社製品について、輸入製品との差別化を意識されている部分はありますか？

信頼性向上のため、「GLOBALG.A.P」や工場の「FSSC22000」などの認証を取得しています。「GLOBALG.A.P」は東京オリンピックにおける食材調達の基準として必要な資格であったこともあり、長期的な事業展開を考えると、こういった安全管理の取り組みは必要不可欠だと考えています。

#### GLOBALG.A.Pとは？

世界110か国以上で実践されている食品安全の総合的な適正農業規範基準です。

#### FSSC22000とは？

食品の加工、製造、取り扱いを対象とした食品安全システム認証で、食品管理基準が定められています。



ジェイエイフーズ宮崎で製造している冷凍野菜「宮崎育ちのほうれんそう」

### Q. 冷凍野菜事業の状況はいかがでしょうか？

冷凍野菜の売上は年々増加しています。販売先ごとに見ると、コロナ禍には、業務・加工用の販売割合が若干減ったものの、生協、コンビニ等の小売向けは増加しました。令和4年度以降はコロナの影響も落ち着いてきましたので、業務・加工用の需要が回復してきており、小売向けと

ともに、売上は順調に推移しています。

冷凍野菜は、女性の社会進出や共働き世帯の増加、少子高齢化等の様々な要因から需要が拡大していて、今後も変わらずニーズがあると考えています。

**Q. ほうれんそうを自社生産するにあたり、工夫していることはありますか？**

コストの上昇や、労働力不足に対応していくため、作業の省力化や、誰でも作業ができる仕組みの構築を目指しています。

収穫機を改良することで収穫に必要な人手を減らしたほか、令和元年から、**スマート農業実証プロジェクト**に参加し、無人運転のロボットトラクターの実証実験などを行いました。



**スマート農業実証プロジェクトとは？**

ロボット技術やAIなどの先端技術を活用し、作業の効率化や生産力の向上を目指す「スマート農業」の技術実証を行い、スマート農業の普及促進を目指す事業です。

**Q. 実証実験に参加した感想はいかがでしたか？**

無人トラクターによる作業と並行して他の作業ができるため、作業時間が削減できたことが大きな収穫でした。また、直進アシスト機能が付いているため、誰でも正確な作業が可能なことも作業の効率化につながりました。

**Q. 無人トラクター導入時に苦労したことはありましたか？**

無人トラクターをどんな作業に活かすのか、アイデアを出すことに苦労しました。

“作業はこうしなければならない”という固定観念があったため、第三者からもアイデアをもらいながら、活用方法を考えました。

**Q. 今後のスマート農業技術に期待することはありますか？**

防除作業にドローンを用いることができれば、更なる作業時間の軽減が期待できますが、ドローンで散布できるほうれんそう用の農薬はまだ登録がない状況です。

無人トラクターについても、運転中は人の目での監視が必要であり、完全な無人というわけにはいかない部分もあります。

現在使用している技術には途上の部分もあるため、今ある技術の精度を上げていくほか、制度整備が進んでいくことを期待しています。

**Q. 最後に、今後の展望について教えてください。**

昨今、様々な面でコスト上昇の影響が出ており、取引先との価格交渉や、仕入単価の調整などに難しさを感じています。そのような状況の中で、いかに生産者の生産意欲を向上させるのか、冷凍野菜の原料確保を図っていくのか、課題は山積しています。

それぞれの課題を解決していくためには、機械の力と人の力、それぞれを上手く使い分けながら省力化や効率化を図るとともに、自社農場の体制を強化していきたいと考えています。

今後、他社と差別化した商品の開発や、販売先の新規開拓を行い、更なる利益創出を目指すだけでなく、宮崎県内の農業を盛り上げていけるような事業を目指していきたいと思っています。



ジェイエイフーズみやざきの皆様と基金取材メンバー